

今案に、行障一名は步障とも云ひ、又步帳とも云ふ、行歩の間に遮障故の名なり、本邦にては是を指几帳と云ふ、古へは常に用ゐし調度なり、その事物語日記などにも見えたり、道を行にさしあげて持行ば、まかいふなり、○下略

〔延喜式五齋宮〕初齋院裝束

小。行障二具

〔延喜式十七内匠〕伊勢初齋院裝束

小行障四具、料檜樽二材、熟銅大三斤、滅金小八兩、鑑銀小四兩、信濃布一尺、白鶴薄六枚、方八寸、八細布六

尺、阿膠六兩、漆一升六合、絹一尺六寸、掃墨四合五勺、炭一斛、和炭四斛、單功六十人、銅工八十人、漆十人、

人、二

賀茂初齋院并野宮裝束

小行障二枚、○中大行障四枚、略

〔儀式一〕春日祭

比到社西方北門、前行大夫以下下馬列立、陪從女下車、執行障候、輦下、

〔儀式一〕賀茂祭儀

其日、○中略時刻齋王駕車赴向、○中略齋王駕車從左右各十人、○中略次執物左右各四人、一人大笠、一人大翳、一人

一人行障、並著退紅染衣、

祭日、○中略齋王先詣下社、○中略腰輿在中路、其前後輿長左右各六人、相列相夾、内外各三人、女孺一人

執行障、在腰輿近前、

〔類聚雜例〕長元九年五月十九日丙申、及晚景左衛門府生坂上時、通令人夫壞院東牆一本、爲御輿路、

略、○中略次御輿長等昇下御輿、駕輿丁等二十人傳荷之、本數四十人也、相替可供奉之、又此間行障等可持立、而有議不入院內、於牆外可備禮也、○中略